

都市ブランド創造局 X方針の概要

	A領域	B領域		C領域
局全体	(1)ユーザー目線を踏まえた現場改善 利便性の向上、ダイバーシティ ・ワーキングチームの設置 ・ユーザーニーズの把握	(1)文化芸術、スポーツ活動の担い手の育成 次世代を担う人づくり ・若者を対象とした活動支援 ・リーダー、指導者の発掘・育成	(2)スポーツ・コンサートによる「稼げるまち」 観光誘客・地域経済活性化 ・観光、文化とセットで楽しめる仕組み(滞在時間の延長)	(1)施設のあり方・ハード 都市間競争力の強化、老朽化対策 ・集約、複合化 ・施設の高機能、多機能化
	(2)アートへのアクセスの多元化 美術に触れるきっかけづくり ・デジタルコンテンツの充実 ・施設の来館メリットの向上	(3)文化関連施設のあり方・ソフト 持続可能なサービスの提供 ・運営方法の改善 ・受益者負担の見直し	(4)外郭団体の見直し 芸術文化振興財団 ・経営人材の採用、育成 ・ロードマップの検討	
文化	(3)文化施設の観光客向けサービスの充実 入場者数の増、観光誘客 ・施設の高付加価値化 ・アクセスしやすい環境の整備	(5)文化芸術を通じた地域経済の好循環 地域経済活性化 ・企業の協賛メリット創出 ・アフターコンベンションでの利用		
	(4)スポーツ施設のオンライン予約の導入 利便性の向上、料金収入の増 ・体育館予約システムの導入			
スポーツ	(5)観光関連データのプラットフォーム構築 効果的な施策の実施、官民連携 ・エビデンスに基づく観光施策 ・マーケティング戦略策定支援	(6)観光・コンベンション施設のあり方・ソフト 持続可能なサービスの提供 ・受益者負担の見直し ・市民割引制度の導入	(7)外郭団体の見直し 観光コンベンション協会 ・専門人材の採用、育成 ・ロードマップの検討	
観光				

局区X方針〈都市ブランド創造局〉

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

まちに潤いや活力を与える賑わいを創出するため、観光資源の磨き上げや大規模イベントの誘致、生活を豊かにする文化芸術・スポーツの振興などを一体的に推進し、北九州市のもつ多彩な魅力や強みを活かし、都市ブランドの向上を促進する。

2 課題と背景

課題A（1）【文化・スポーツ・観光】

① 課題名

ユーザー目線を踏まえた現場改善（文化、スポーツ、観光・コンベンション）

② 課題の内容

- ・文化施設やスポーツ施設などにおいて、ユーザー目線が十分ではなく、特に子育て中の世帯にとって、利用しづらい設備やサービスがあること
- ・障害のある方や外国人に対応できていない、施設・設備、案内表示があること

③ 課題の背景

年齢の差異（大人と子供、高齢者など）、障害の有無、言語などにかかわらず、多様な人が利用しやすいサービスの提供が求められていること。

④ 課題に対する取組み

現在、博物館ではワーキングチームを設置し、案内表示の改善に取り組んでいる。

今後は、ユーザーニーズの把握方法の改善や、取組事例を施設間で共有する場を設けるなど、ユーザー目線に立って、さらなるサービスの改善に取り組んでいく。

具体的には、子ども連れ世帯（ひとり親）、障がい者（視覚障害、聴覚障害、車いす）、ジェンダーなど、対象ごとに点検項目を設定し、複数の職員で点検するなど、きめ細かなチェック体制を整えるとともに、施設を跨いで点検を行うことで、全体としてサービスを向上させ、より高いレベルでサービスの平準化を図る。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

【文化】

- 各施設において、以下の取組を実施した。
 - ア：施設改善ワーキングチームの設置
 - イ：ユーザー目線を踏まえた施設的美観や案内の改善
 - ウ：利用者に対するヒアリング調査
- ※詳細は別表1のとおり。

【スポーツ】

- ユーザー目線を踏まえ、施設の案内標識板の建替やトイレの洋式化に着手した。

【観光】

- 小倉城のエレベーター増築やトイレの改修などに着手した。
- 西日本総合展示場、北九州国際会議場は、来場者アンケートの回収率を高めるため、QRコードによるWEBアンケート導入に向けた準備作業を開始した。

課題A（2）【文化】

① 課題名

アートへのアクセスの多元化

② 課題の内容

- ・美術館の入館者数が減少傾向にあること
- ・収蔵作品のデータベースがないなど、美術館のDXが遅れていること

③ 課題の背景

美術館の入館者数が減少傾向にあるため、市民の方に美術に興味を持っていただくきっかけづくり、さらには障害のある方、不登校児童、高齢者など、美術館への来訪が困難な方も含めて、誰もが美術にアクセスできる環境を構築する必要がある。

④ 課題に対する取組み

趣味・娯楽の行動様式が、直接鑑賞からスマートフォンやCD・DVDなどの間接鑑賞に移っていること（社会生活基本調査）を踏まえて、令和6年度は、国の「Innovate MUSEUM事業（博物館DX推進事業）」を活用し、美術館内を散策できるVR動画などデジタルコンテンツの充実や、美術館と学校をオンラインでつなぎ、専門スタッフの案内により美術鑑賞を行う「オンライン・ミュージアム・ツアー」を実施するとともに、デジタル技術を活用した美術鑑賞の有効性を検証し、本格実施に向けたプログラムの改善等を行う。

また、収蔵作品240点のデータベース化（作品紹介、作者紹介、英語対応）を行い、HPで閲覧できるようにするとともに、まちなかで美術に触れる機会の創出、イベントや夜景を楽しむ機会の創出（夜間開館イベント、館内レストランでのパーティープラン）など、様々な手法を活用して、美術に興味を持っていただくきっかけづくりに取り組み、美術館への来館を促していく。

あわせて、例えば小中学生の体験学習として美術品の模写を認めるなど、来館メリットを高める取組についても実施していく。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

- 美術館のデジタルコンテンツの充実やオンライン・ミュージアム・ツアーの試行実施など、美術作品の新たな体験価値を提供する取組を実施している。
- 美術館では、まちなかでアートに触れる機会の創出や旅行ツアー誘致など、新たな来館者獲得に向けた取組を実施するとともに、中学校の要望に応じて彫刻作品の模写を実施した。

※詳細は別表2のとおり。

課題A（3）【文化】

- ① 課題名
文化施設における観光客向けサービスの充実
- ② 課題の内容
文化施設についても観光集客の視点に立ち、観光客など市外からの来訪者がアクセスしやすい環境の整備を行う。
- ③ 課題の背景
文化施設の入館者数が減少傾向にある中で、文化に興味がない方にも来館を促し、その場所（文化施設）が持つ価値に触れるきっかけづくりや、観光誘客を促す施策に取り組んでいく必要がある。
- ④ 課題に対する取組み
館内w i f i環境の整備、本市観光サイトへの文化施設一覧の掲示、各文化施設の内外に記念撮影スポット（施設壁面を活用した3D壁画の看板、ロゴオブジェなど）の設置、サイン（当該施設及び周辺施設の案内）整備などに取り組んでいく。
- ⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）
 - 北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ!北Q州」への文化施設一覧の掲示に着手した。
 - 各文化施設において、新たな来館者の獲得と観光客の周遊促進に向けた取組を実施した。
※詳細は別表3のとおり。

課題A（4）【スポーツ】

- ① 課題名
スポーツ施設のオンライン予約の導入
- ② 課題の内容
・オンラインによる予約システムが導入されていないこと
- ③ 課題の背景
現在、体育館を専用利用する際は、ホームページ等で空き状況を確認し、体育館に直接出向いて申込み、使用料の支払いを行っている。
- ④ 課題に対する取組み
体育館予約システムを導入するに当たり、現状を正確に把握するとともに、誰もが使いやすい最適なシステムになるよう実証実験などを行い、慎重に検討を進める。
また、市外からの利用者も積極的に受け入れるなど、利用率の向上を図るとともに、利便性の向上（高付加価値化）による受益者負担の見直し（市外利用者料金の設定など）について検討を行い、財源確保によるさらなるサービスの充実につなげていく。
- ⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）
 - 体育館（6施設）で実証調査を行い、調査結果を踏まえて、課題を整理するとともに、運用ルールなどを検討している。

課題A（5）【観光】

- ① 課題名
観光関連データを官民で共有するプラットフォーム構築
（官民連携による観光振興）
- ② 課題の内容
・エビデンスに基づく観光振興施策の立案・検証等が求められていること
- ③ 課題の背景
コロナ禍を経て観光を取り巻く環境が大きく変化している中、変化に対応し、観光で「稼げるまち」を実現していく必要がある。
- ④ 課題に対する取組み
来訪者の属性、市内の宿泊・周遊状況などをタイムリーに把握・集約するとともに、官民で共有できるプラットフォームを構築し、エビデンスに基づく観光振興施策の立案・検証を行う。
また、観光関連事業者のマーケティング戦略策定などを支援していく。
- ⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）
市内の観光関連事業者などへのヒアリングを終え、ウェブ上で公開すべき観光関連データを確定するとともに、観光人流データの調査やプラットフォームの構築に着手した。

課題B（1）【文化・スポーツ】

- ① 課題名
次世代に向けた文化芸術、スポーツ活動の担い手の育成
- ② 課題の内容
・高齢化等により文化芸術、スポーツ活動等の担い手不足が見込まれること
- ③ 課題の背景
全国的に人口減少と少子高齢化が進展している中、北九州市は、政令市の中で最も高齢化率が高く、人口減少が急速に進んでいるため、地域で受け継がれてきた文化芸術、スポーツ活動等の担い手を育成する必要がある。
- ④ 課題に対する取組み
文化芸術活動について、令和6年度は、子どもや若者の活動を対象とした補助事業（文化芸術次世代育成事業「TRY ARTs」）や、若者がまちなかで多くの人にパフォーマンスを披露する場所づくりを行う「Challenge Music Stage」を新たに実施するなど、次世代の担い手育成に取り組んでおり、令和7年度以降は、事業効果を検証するとともに、参加者の意見等も踏まえて、ブラッシュアップさせていく。
各地域で脈々と受け継がれる祭りなどを未来に継承していくため、後継者の育成に向けた支援を行っているものの、少子化による影響など、地域だけでは課題解決が難しい

ことから、各地域の課題や取組状況の共有、地域リーダーの発掘や育成、好事例の横展開に取り組むなど、計画的に担い手を育成していく。

スポーツ活動について、令和6年度は、「北九スポーツキッズマンズプロジェクト」など、子ども向け体験型スポーツイベントを開催し、スポーツに親しむきっかけづくりに取り組んでおり、令和7年度以降は、事業効果を検証するとともに、参加者の意見等も踏まえて、ブラッシュアップしていく。

また、北九州市スポーツ協会などと協力し、地域スポーツを担う人材（指導者等）の育成・活用及び資質向上に向けた取組を継続して進める必要がある。

加えて、まちなかオープンスペースの活用など、誰でも気軽にスポーツができる環境の創出に取り組んでいく。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

【文化芸術活動】

- 子どもや若者の活動を対象とした補助事業や、若者がまちなかでパフォーマンスを披露する場所づくりを行った。
※詳細は別表4のとおり。

【祭り等の継承】

- 各団体のニーズを踏まえて、補助金の活用促進や担い手不足解消に向けた取組を実施した。
※詳細は別表5のとおり。
- 補助制度の活用や福岡県お助け隊の活用について、ニーズを踏まえた適切なアドバイスを行うため、各団体へのヒアリングを予定している。

【スポーツ】

- 子どもを対象としたスポーツイベントを開催し、スポーツに親しむきっかけづくりに取り組んだ。
- 地域スポーツを担う人材の育成等に向けて、関係団体等と連携してスポーツ教室を開催した。
- まちなかオープンスペースの利活用について、関係部局と協議・調整を開始した。

課題B（2）【文化・スポーツ】

① 課題名

スポーツ・コンサートによる「稼げるまち」の仕組みづくり
（経済波及効果や都市ブランド向上への貢献）

② 課題の内容

・大規模国際スポーツイベント等による経済波及効果の拡大

③ 課題の背景

北九州市では、多くの大規模国際スポーツイベント等を誘致・開催し、本市の認知促進やシビックプライドの醸成を図っているが、まちなかにぎわいや経済波及を会場周辺だけでなく市内全域に広げていく必要がある。

④ 課題に対する取組み

今後は、観光や文化等とセットで楽しめる仕掛け・仕組みを通して、滞在時間をさらに延ばすことで「スポーツ・コンサートで稼ぐまちづくり」に取り組んでいく。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

○ 大規模国際スポーツ大会の開催（主なもの）

- ・バレーボールネーションズリーグ
- ・第2回FIGパルクール世界選手権北九州
- ・WTTファイナルズ福岡

○ エコフレンドリーな取組（主なもの）

- ・大規模国際スポーツ大会の開催時、スタッフなど関係者に、約160の飲食店で利用できるミールクーポンを配布し、フードロスを推進するとともに、市内飲食店への誘客を図った。

○ 市内周遊促進の取組

- ・大規模国際スポーツ大会の会場に、観光ブースを設置し北九州市の観光PRを行った。
- ・大規模国際スポーツ大会や北九州国際映画祭、小倉城竹あかりなどの来場者に対して、市内の飲食店や小売店、観光施設などで割引や特典を受けられるキャンペーンを実施した。

課題B（3）【文化】

① 課題名

文化関連施設のあり方・ソフト
（運営方法及び受益者負担の見直し）

② 課題の内容

- ・文化関連予算の9割を施設関連経費が占めている

③ 課題の背景

市民一人あたりの文化関連経費について、他の政令市と比較すると、全体予算額は同程度であるが、施設にかかる経費は約1.4倍となっており、より効果的、効率的に文化関連施設の設置目的を達成するためには、運営方法や受益者負担のあり方を見直す必要がある。

④ 課題に対する取組み

令和6年度は、市政変革推進プランに基づき、文化振興施策全体の経営分析を行い、現在の運営状況や他都市の同種施設との比較などを行う。

さらに、有識者やステークホルダー等と運営方法について検討を進めるとともに、具体的な改善に向けて課題の洗い出しや論点整理等を行う。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

【博物館系施設】

- 施設の運営方法を研究するため、大阪市役所及び独立行政法人大阪市博物館機構へ視察・ヒアリングを実施した。
- 施設の魅力向上や今後のあり方を現場の学芸員等も含めて議論するため、学芸員研修交流会の開催を予定している。（R7. 1. 15）
- 施設の運営方法など、変革の方向性について関係者と協議を開始した。

【ホール系施設】

- 施設の利用ルールや減免のあり方を見直すため、局内ワーキンググループを設置した。

課題B（4）【文化】

① 課題名

北九州市芸術文化振興財団の組織体制見直し

② 課題の内容

・長期的視点に立った北九州市芸術文化振興財団の運営について

③ 課題の背景

北九州市芸術文化振興財団のプロパー職員は学芸員のみのため、その運営は市の派遣職員が主に担っており、長期的な視点での組織運営・経営が十分にできていない。

北九州市芸術文化振興財団の収入の約8割が市の指定管理料等であり、自主財源が少ないものの、政令市平均（75%）と大きな差異はない。

一方、文化芸術に関する外郭団体のプロパー職員の割合は、政令市平均は42%に対し、北九州市は4%と非常に少なく、人員体制の強化が必要である。

※指標は、いずれもR5調査時点のもの

④ 課題に対する取組み

経営人材の採用及び育成など、取組の方向性について、北九州市芸術文化振興財団と協議を進め、課題解決に向けたロードマップを検討する。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

- 組織の変革プラン策定に向けて、北九州市芸術文化振興財団との協議を開始した。
- 外部の専門家などによる伴走支援が受けられる文化庁事業の採択を目指し、市と北九州市芸術文化振興財団が連携して取り組んでいくこととした。

課題B（5）【文化】

① 課題名

文化芸術を通じた地域経済の好循環・施設の多目的活用
（ナイトタイムエコノミー、異分野コラボレーション等）

② 課題の内容

- ・より自走できる文化芸術振興の仕組みづくりが求められていること

③ 課題の背景

環境の変化や厳しい財政状況に対応するため、地域のステークホルダーと連携して収入の確保に努めるとともに、文化観光による地域経済への貢献等を推進する必要がある。

文化関連施設の収支比率は約12%と低く、アート×食など異分野とのコラボレーションやナイトタイムエコノミー等により、新規顧客や新たな収入確保策の検討が必要である。北九州市には、ぬか炊きや寿司、焼き肉をはじめとした、歴史的背景のある食文化が多くあり、全国と比較しても、市民が食文化の展示、イベントへ参加する割合は高い状況にある（文化庁と北九州市立大学の調査比較）。

④ 課題に対する取組み

令和6年度から企業の文化芸術事業への協賛に対して、特別プログラムを提案するなど、協賛メリットの創出に取り組んでおり、今後も持続可能な事業スキームの構築に取り組んでいく。

また、美術館の「訪れたくなる特別な空間」を活用し、アフターコンベンション等での利用促進や、食事付き、夜景鑑賞付き、音楽鑑賞付きといった美術館を楽しむプレミアムパッケージを開発する。

加えて、博物館の「迫力ある恐竜の骨格標本」や文学館の「時間や天気によって様々な表情を見せる神秘的なステンドグラス」など、特別な空間を活かした更なる活用策について、民間企業や教育機関など、多様な主体と連携して検討し、新たな価値を創出するとともに、各施設の特性を踏まえたナイトミュージアムを実施するなど、ナイトタイムの取組みを強化し、滞在時間の延長に伴う宿泊客の増加など、地域経済の好循環を生み出していく。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

- 博物館でナイトミュージアムを実施した（令和6年7～10月に4回実施、来館者3,000人以上）。
- 美術館で夜間開館・イブニングコンサートを開催した。
現在、令和7年2月の夜間開館実施に向けて調整を行っている。
- ナイトタイムエコノミーの創出を図るため、市内6つのミュージアムが、文化芸術と異分野のコラボをテーマに、夜間、一斉に独自性のあるイベントを実施する予算を要求している。

課題B（6）【観光】

① 課題名

観光・コンベンション施設のあり方・ソフト
（受益者負担の見直し）

② 課題の内容

- ・観光施設の利用料金のあり方を見直し、魅力ある取組の強化に向けた財源の確保を

図る必要がある

③ 課題の背景

小倉城をはじめとした観光施設は、インバウンド需要の高まりから入場者数が記録的に増加している中、他都市の観光施設と比較して利用料金はかなり割安となっている。

公の施設の利用料金については、平成31年4月に全市的な見直しが行なわれたものの、観光施設については、市民利用促進のため見送られた経緯がある（一部施設について見直し）。

④ 課題に対する取組み

利用料金の見直しと北九州市民割引制度の導入（減免による利用料の据置）を検討し、指定管理料などの市負担額の軽減や施設のさらなる魅力向上、取組強化に必要な財源の確保を図る。

また、施設に付属する駐車場等の料金についても、適正な料金への見直しを検討する。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

観光施設の利用料金の見直し（一部）に向けて、関係部局と協議を開始した。

課題B（7）【観光】

① 課題名

北九州観光コンベンション協会のあり方の見直し

② 課題の内容

・長期的視点に立った北九州観光コンベンション協会の運営について

③ 課題の背景

MICE誘致・開催支援における都市間競争が激しさを増す中、北九州観光コンベンション協会がレベルアップするためには、専門性の高い人材の確保が不可欠な状況である。しかし、当該団体のプロパー職員の年齢構成は、50歳代に偏っており、若手・中堅職員が少なく、人材育成も十分とは言えない状況にある。

④ 課題に対する取組み

専門人材の採用及び育成など、取組の方向性について、北九州観光コンベンション協会と協議を進め、課題解決に向けたロードマップを検討する。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

年齢構成や人材育成などの課題解決に向け、北九州観光コンベンション協会との協議を開始した。

課題C（1）【文化・スポーツ・観光】

① 課題名

ア 文化関連施設のあり方・ハード

（老朽化対策、集約複合化、都市間競争力の強化）

- イ スポーツ施設のあり方・ハード
(老朽化対策、集約複合化、都市間競争力の強化)
- ウ 観光・コンベンション施設のあり方・ハード
(老朽化対策、都市間競争力の強化)

② 課題の内容

都市ブランド創造局の予算のうち、約85%が施設管理にかかる経費となっており、老朽化の進展により、今後、施設管理経費のさらなる増加が見込まれ、ひいてはソフト事業の実施にも支障をきたす恐れがある。

このような状況を回避するには、施設の複合化や利用目的の自由化(多目的化)等により、市民の利便性を低下させることなく、効果的・効率的な施設のあり方を検討し、見直していく必要がある。

ア 文化関連施設は老朽化したものも多く、公共施設マネジメントの方向性を踏まえつつ、多目的活用など環境の変化に応じた文化関連施設のあり方を検討する必要がある。

イ スポーツ施設は、市内全域に点在化しており、また老朽化したものも多いため、公共施設マネジメントの方向性を踏まえつつ、スポーツ施設の複合化や老朽化施設の長寿命化対策などを検討する必要がある。

ウ 西日本総合展示場本館、新館、北九州国際会議場や皿倉山の観光施設(ケーブルカー、スロープカー、展望台の一部)は老朽化が進んでおり、施設のあり方、今後の方向性について、民間活力の導入を前提に検討する必要がある。

とりわけ、皿倉山の観光施設については、現在、皿倉登山鉄道株式会社が運営を担っているが、皿倉・東田地区のさらなる魅力向上を図るため、利便性の向上や人材の確保・育成といった観点から、運営手法についても検討していく。

③ 課題の背景

ア 北九州市の文化施設17施設中8施設(47%)が築30年を越えるなど、老朽化した施設が多く、令和6年度の文化関連予算5,095百万円のうち、約9割を施設の維持管理及び改修費用が占めており、文化施策における大きな課題となっている。

イ スポーツ振興関連の令和6年度当初予算3,224百万円のうち、約9割を施設の維持管理や改修費用が占めており、スポーツ施策における課題となっている。

ウ 近隣都市において、新規MICE施設が相次いで開業しており、展示場、会議場ともに、施設・機能の両面で都市間競争に不利な状況となっている。

また、皿倉山のケーブルカーは、高齢者や障害者等への十分な対応が構造的に困難であり、スロープカーは5年後に更新時期を迎える状況にある。

④ 課題に対する取組み

老朽化している文化、スポーツ、観光施設のあり方検討に当たっては、単に施設の集約や統廃合にかかる議論だけでなく、厳しい都市間競争に勝ち抜き、基本構想に掲げる「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現に向けて、JR小倉駅周辺など利便性の高い

エリアへの移転や、高機能かつ多機能化された施設への建て替えなどについてもあわせて議論していく。

なお、文化、スポーツ、観光施設のあり方については、北九州市公共施設マネジメント実行計画を基本としながら、関係各局とも連携し、必要に応じて見直しを検討する。

⑤ 取組みの進捗状況・取組み結果（令和6年11月時点）

【博物館系施設】

- 美術館アネックス棟の大規模改修のため予算要求中。

【ホール系施設】

- 響ホールの老朽化対策にむけ予算要求中。
- 北九州ソレイユホールの老朽化調査のため予算要求中。

【スポーツ施設】

- 個別施設のあり方検討に向け、考え方や条件整理を進めている。
- 公共施設マネジメント実行計画に基づくスポーツ複合公共施設の整備（大里地域モデルプロジェクト）のため、整備条件等の検討を進めている。

【観光・コンベンション施設】

- 観光施設（皿倉山）については、スロープカーの更新時期が迫っているため、新たな移送手段の導入を含め、今後のあり方検討を開始した。
- 西日本総合展示場（新館）、北九州国際会議場の更新や機能、利便性向上につながる改修については、今後予定されているエリアマネジメントの検討に合わせて進めていくことを確認した。

別表1

ユーザー目線を踏まえた現場改善の進捗状況

施設名	概要	実施時期
自然史・歴史博物館	①施設改善ワーキングチームを設置 ②看板の案内表示について表現を改善 ③ユーザーニーズを踏まえ、館内を結婚式の前撮り等に活用 ④利用者ヒアリング調査を実施（予定）	①令和6年8月 ②令和6年8月 ③令和6年9月 ④令和6年12月1日 ～12月8日
美術館	①施設改善ワーキングチームを設置 ②景観を損ねる看板類の撤去、禁止表示の見直し ③利用者ヒアリング調査を実施	①令和6年8月 ②令和6年9月 ③令和6年10月
漫画ミュージアム	①利用者ヒアリング調査を実施 ②施設改善ワーキングチームを設置 ③チラシをジャンル分けして、できる限り集約した ④エントランス入口の物品を撤去 (傘立ては雨天時のみエントランスへ設置)	①令和6年8月 ②令和6年8月～ ③令和6年8月 ④令和6年11月
科学館	①施設改善ワーキングチームを設置 ②展示物の案内表示の改善 ③館内掲示物の設置ルールを徹底 (客層とマッチしないイベントの掲示物を除外する等) ④利用者ヒアリング調査を実施（予定）	①令和6年8月 ②令和6年8月 ③令和6年8月 ④令和7年3月
文学館	①施設改善ワーキングチームを設置 ②こども文庫前に子ども用のイスを配置 ③入口掲示板の整理（情報のすみ分け） ④目立つ場所にある物品（傘立て）の移動 ⑤利用者ヒアリング調査を実施（予定）	①令和6年8月 ②令和6年8月 ③令和6年8月 ④令和6年8月 ⑤令和6年12月
松本清張記念館	①施設改善ワーキングチームを設置 ②音声ガイドを設置（予定） ③利用者ヒアリング調査を実施（予定）	①令和6年8月 ②令和6年12月 ③令和7年2月
長崎街道	①利用者等の意見を踏まえて駐車場の案内看板を改修	①令和7年3月

木屋瀬宿記念館	(予定)	
ホール系施設	【共通】 ①利用者ヒアリング調査を実施(予定) 【北九州芸術劇場】 ②トイレのウォシュレット化(予定) 【響ホール】 ③駐車場案内看板を改善(予定) ④障がい者団体と意見交換会(バリアフリー化)を実施 ⑤老朽化対策と合わせ、バリアフリー化を実施(予定)	①令和7年2月 ②令和7年2月～ ③令和7年4月 ④令和6年11月 ⑤令和9年～

別表2

アートへのアクセスの多元化の進捗状況

項目	概要	実施時期
デジタルコンテンツ等の充実	①収蔵作品240点のデータベース化(作品紹介、作者紹介、英語対応) ②データベースをHPで公開 ③美術鑑賞授業をイメージした動画コンテンツの作成 ④美術館のVR動画コンテンツの作成 ⑤拡大可能な絵画画像コンテンツの作成 ⑥学校等へアウトリーチが可能な彫刻レプリカの作製	令和6年9月～11月
「オンライン・ミュージアム・ツアー」の実施	①オンライン・ミュージアム・ツアーの試行実施(小学4年生を対象) ②各種コンテンツを活用した対話型鑑賞授業の試行実施 ③各種コンテンツを活用した学芸員等による出前授業の試行実施	令和6年12月～
まちなかアートの実施	①商業施設での作家によるワークショップ ②小倉城庭園で複製絵画の解説付きアフタヌーンティーの実施 ③NCB(西日本シティ銀行)街かどギャラリーにて美術館紹介パネル、レプリカ等を展示 ④子どもの館等でのアートイベントを実施(予定)	①令和6年10月 ②令和6年10月～12月 ③令和6年11月～令和7年2月 ④令和7年2月
旅行ツアーの誘致	①観光関係団体へ美術館カフェのパーティープランのチラシ配布 ②夜景や食事を楽しんでいただくプレミアムツアーを実施(予定)	①令和6年9月 ②令和7年2月
特別な空間を活用したイベントの実施(異分野とのコラボ)	①キッズ&ユースデイでの打楽器によるコンサート	①令和6年8月

別表3

文化施設における観光客向けサービスの充実の進捗状況

施設名	概要	実施時期
自然史・歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ①来館者目線による館内サインの継続的見直し ②ホームページデザインの全面的見直し（迫力ある恐竜標本の活用や多言語対応したコンテンツの作成など） ③観光客の記念撮影スポット（恐竜関連の3Dアート）設置のため予算要求 ④来訪者の市内周遊を促す「Kit a Qおもてなしキャンペーン」へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和6年8月～ ②令和6年8月～ ③令和7年度 ④令和6年9月
美術館	<ul style="list-style-type: none"> ①広域連携による広報で集客を図る（せとうち美術館ネットワークに加入） ②磯崎新建築作品の動画をHP等で公開し、建築ファンの誘客を促進する ③企画展にあわせプレゼントキャンペーンをSNSで実施 ④来訪者の市内周遊を促す「Kit a Qおもてなしキャンペーン」へ参加 ⑤他の美術館等と連携したキャンペーンイベントを実施（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和6年11月 ②令和6年12月～令和7年1月 ③令和6年4月・9月 ④令和6年9月 ⑤令和7年度
漫画ミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> ①展示物管理会社と調整し、撮影可能エリアを追加 ②撮影禁止表示を撤去 ③利用者等へ配布する撮影スポット等にかかる注意喚起チラシ（日英版）を作成 ④来訪者の市内周遊を促す「Kit a Qおもてなしキャンペーン」へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和6年9月 ②令和6年9月 ③令和6年11月 ④令和6年9月
科学館	<ul style="list-style-type: none"> ①市内企業・大学との共同イベント開催に向けて予算要求 ②来訪者の市内周遊を促す「Kit a Qおもてなしキャンペーン」へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和7年秋 ②令和6年9月
文学館	<ul style="list-style-type: none"> ①来訪者の市内周遊を促す「Kit a Qおもてなしキャンペーン」へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和6年9月
松本清張記念館	<ul style="list-style-type: none"> ①撮影スポットを設置（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和7年2月

別表4

次世代に向けた文化芸術、スポーツ活動の担い手の育成の進捗状況【文化芸術活動】

事業名	概要	実施時期
文化芸術 次世代育成 事業 TRY ARTs	若者の文化芸術活動や、若い世代が文化芸術に触れる機会を 創出する事業 (応募45件、採択20件、補助額450万円)	令和6年7月 ～令和7年3月
新世代応援 Challenge Music Stage	若い世代が、まちなかでパフォーマンスを披露する機会をつ くる事業 (24団体、出演者649名、総来場者3,980名)	令和6年9月

別表5

次世代に向けた文化芸術、スポーツ活動の担い手の育成の進捗状況【祭り等の継承】

事業名	概要	実施時期
文化財保存 補助	指定無形民俗文化財の伝承者養成費用や用具修理費用等の補 助 (17団体、交付金額1,020千円)	令和6年7月
福岡県 お助け隊	地域の伝統行事への担い手人材の派遣事業 (1団体3名の担い手を派遣)	令和6年8月
地域文化財 総合活用推進 事業	地域の伝統行事等の後継者養成費用、用具修理等費用の補助 (2団体、交付金額6,549千円)	令和6年11月
民間・財団等 助成	地域の民俗芸能等の後継者育成に必要な活動費用の補助 (2団体、交付金額78千円)	令和6年6月